

(記載例1)

第3 事業全体の内容

1 事業全体の方針

J A〇〇市△△生産部会では、市場における出荷量のまとまりと品質の良さを売りに差別化して有利販売をすすめている。しかし、異物混入や量目不足等が頻繁に起こっており、その都度、異物混入や量目不足に対するクレーム対応や返品、出荷停止の措置がとられている。そこでG A Pを活用し、生産部会として出荷農産物への生産者の意識の向上および経営改善に取り組むことで、出荷農産物の信頼性の確保による有利販売を目指す。

測定内容の進捗を図る視点を記載

測定実施時期  
(出荷時期、〇月)

2 産地リスク分析データ収集

〇食品安全	測定内容	測定方法	測定間隔
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>異物混入等出荷農産物へのクレームに対する対応状況の把握と対応策の検討・実施によるクレームの低減</li> </ul> <p>※評価指標では産地における対処すべきリスクと対応について記載</p>	過去の異物混入等クレーム件数と内容を把握・整理 現在のクレーム件数・内容と比較 連絡体制づくり等意識改善	出荷前・出荷中・出荷後
管理点①	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品に関する苦情・異常が発生する原因と是正に向けた取組</li> <li>各経営体における農場内部環境の見直し</li> <li>農場内部ルール違反箇所の環境改善対応</li> <li>喫煙場所の特定による異物混入の予防</li> </ul> <p>※管理点では産地リスクを低減するための具体的な取組内容について記載</p>	個別生産者の異物混入危険箇所の見直し 対応策の検討農家数および実施農家数 〇戸	出荷前
管理点②	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷農産物の量目不足によるクレームへの対応</li> <li>部会内における出荷規格の見直し</li> <li>定期的な秤の点検等による計量方法の見直し</li> </ul>	出荷農産物規格の確認 計量作業方法の見直し 定量秤の点検農家数 〇戸	出荷前・出荷中
管理点③	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産部会におけるクレーム低減を目的とした意識の醸成・向上及び注意喚起を継続するための目標およびルールづくり</li> </ul>	注意喚起のためのルールづくり スローガンの作成	出荷後

〇労働安全	測定内容	測定方法	測定間隔
評価指標			
管理点①			
管理点②			
管理点③	<p>※食品安全・労働安全・環境保全3分野のうち、1つ以上の分野を評価指標として設定し、記載して下さい。管理点についても同様に1つ以上の取組内容を設定し、実効性のある具体的な取組内容を記載して下さい。</p>		

〇環境保全	測定内容	測定方法	測定間隔
評価指標			
管理点①			
管理点②			
管理点③			

3 特筆すべき事項

本事業に取り組むに当たって、アピールしたい点や他の産地と比較して優れている点、データ収集を効率的に行うための工夫等の特筆すべき事項があれば記載。

J A〇〇市△△生産部会は役員体制がしっかりしているため、役員会で十分検討し、役員を中心に部会員に広げることで、全体の動きを作り円滑に活動をすすめていきたい。

## (記載例 2)

### 第3 事業全体の内容

#### 1 事業全体の方針

J A ○ ○ 市 △ △ 生産部会では、50名の部会員で中山間地の寒暖差で良質な \* \* を生産しているが、平均年齢70歳、後継者がいない農家が60%に及び、このままの状態では部会の継続が困難であり、○ ○ 市特産の△ △ の産地自体が弱体化してしまう。農業の衰退は地域の居住者の減少につながり、人の手が入ることで保全されていた里地里山が耕作放棄地の増加により生物多様性に悪影響を及ぼすことが懸念される。また、高齢化による農薬使用ミスや労働事故も増加傾向にあり、食品安全や労働安全のリスクの低減を図る必要がある。そこでG A P の団体マネジメント機能を活用し、部会員が減少しても後継者を中心に農業で生計が立てられるよう産地の維持を図る。G A P のリスク評価に基づく管理手法を団体全体で構築し、地域の環境保全及び食品事故や労働事故のない産地を目指す。

測定内容の進捗を図る視点を記載

測定実施時期(出荷時期、○月等)を記載

#### 2 産地リスク分析データ収集

○環境保全リスク	測定内容	測定方法	測定間隔
評価指標	1. 出荷額 (目標: * * * * * 円 昨対100%) 2. 圃場面積 (目標: * * ha 昨対100%) 3. 地域の耕作放棄地の増加面積 (目標: * * ha 昨対70%) 4. 獣害の発生件数 (目標: * * 件 昨対80%)	※評価指標では産地における対処すべきリスクと対応について記載 昨年対比を把握する 生産部会が継続でき、地域の環境保全が図られる目標設定づくり	年度末12月
管理点①	1) 今後の生産能力の調査により産地を構成する部会員の経営状況の把握 2) 将来の生産目標に向けた課題の整理と対応策の検討	各戸における圃場面積・労働力・出荷額の把握と生産目標とのすりあわせ	1月 作付け前・収穫後
管理点②	1) 後継者の生産能力の余力の把握 2) 圃場を手放す際の団体への相談ルールの確立 3) できるところから共同管理の実施 4) 肥料農薬の一本化	※管理点では産地リスクを低減するための具体的な取組内容について記載 産地を継続するための仕組みづくり	1) 2) → 1月 3) 4) → 来年1月
管理点③	1) 獣害被害調査による有効な対策の調査・試験 2) 部会全体で鳥獣被害箇所の確認と対策検討会の実施 3) 鳥獣被害対策ルールとスローガンづくり	鳥獣害対策の取組による農地を守る仕組みづくり	1) 1月 2) 3月 3) 5月

○食品安全リスク	測定内容	測定方法	測定間隔
評価指標	農薬使用基準違反ニアミスの件数 (目標: 0件 昨年3件)	昨年対比を把握する 昨年の基準違反を疑われた内容と件数を整理 今年度の基準違反の内容・件数を整理	7月
管理点①	部会として農薬散布時の実態の共有と間違えにくい農薬使用計画の検討と作成及び安全な使用方法の確認	農薬使用計画の作成と安全な農薬使用のポイント整理	7月 12月
管理点②	部会での農薬使用計画と適正な使用方法の周知徹底と農薬事故回避への意識向上に向けたスローガンづくり	農薬使用計画と安全な使用方法の実施農家数 スローガンの作成	1月 8月
管理点③	リスクがありそうな農家への調整現場における指導の実施	農薬調整時の安全な作業方法の習得農家数	4月

○労働安全リスク	測定内容	測定方法	測定間隔
評価指標	労働事故 (休業しなければいけない事故以上) の件数 (目標: 0件 昨年2件)	昨年対比を把握する 過去1年間と今年の労働事故及びヒヤリハット事故の件数と内容を把握・整理	年度末 12月
管理点①	危険な場所と作業を部会員全員で共に調査し洗い出し、労働安全のリスクの実態を評価表に落とし込む。現場調査では写真を撮る。	生産者の作業安全に対する意識向上 危険箇所と危険作業の見直しと整理	7月

管理点②	部会員全員で現場を回りながら、労働安全のリスク評価表を基に自分なりのリスク評価と対策を検討する。その際に、互いにアイデアを出し合い有効な対策を模索する。	生産部会検討会における今後の有効な取組事項の整理	8月
管理点③	農作業事故をなくすための意識の向上と注意喚起のためのルール及びスローガンづくりを行う。リスク対策のツールとして共同で立て札等を設置する。	注意喚起のためのルール及びスローガンづくり 危険箇所への立て札設置	9月

※食品安全・労働安全・環境保全3分野のうち、1つ以上の分野を評価指標として設定し、記載して下さい。  
管理点についても同様に1つ以上の取組内容を設定し、実効性のある具体的な取組内容を記載して下さい。

### 3 特筆すべき事項

本事業に取り組むに当たって、アピールしたい点や他の産地と比較して優れている点、データ収集を効率的に行うための工夫等の特筆すべき事項があれば記載。

現状のままでは近い将来産地が持たないことは目に見えており、現在はその過渡期にある。将来的には担い手に集約して産地が維持できるよう、まずは共同管理等からはじめて徐々に移行して行きたい。GAPはそのために団体を統治して行く道具と考えて有効に活用し、この手法を他の農産物部会にも横展開して〇〇市の農業全体の将来を支えて行きたい。